

会 議 録

第 1 7 回定例会

開会 平成 2 7 年 1 2 月 2 1 日

教育委員会会議録

- 1 開 会 平成27年12月21日（月）午後2時
- 2 閉 会 平成27年12月21日（月）午後3時40分
- 3 出席委員
- | | |
|---------|--------|
| 委員長 | 松重 和美 |
| 委員 | 西 泰宏 |
| 委員 | 田村 典子 |
| 委員 | 坂口 裕昭 |
| 委員 | 三牧 千鶴子 |
| 委員（教育長） | 佐野 義行 |
- 4 出席者
- | | |
|-----------------|-------|
| 副 教 育 長 | 木下 慎次 |
| 教 育 次 長 | 清水 敏彦 |
| 教 育 戦 略 課 長 | 酒卷 英紀 |
| 教 職 員 課 長 | 草野 純一 |
| 学 校 政 策 課 長 | 森本 俊明 |
| 体 育 学 校 安 全 課 長 | 阿部 俊和 |
| 教 育 総 務 課 長 | 勢井 研 |
| 教 育 総 務 課 副 課 長 | 樫本 晃一 |

[開 会]

委員長 定例会を開会する旨を告げる。

[会議録の承認]

委員長 配付されている会議録を承認して差し支えないかを各委員に諮る。

各委員 異議なし。

委員長 会議録を承認する旨を告げる。

[教育長報告]

教育長 1 2 月定例県議会における質疑応答の概要及び審議結果について報告する。

[議 事]

委員長 議案第 4 6 号及び議案第 4 9 号を非公開として差し支えないかを各委員に諮る。

各委員 異議なし。

委員長 そのように取り計らうこととし、議事に入ることを告げる。

《議案第 4 7 号 阿南工業高校・新野高校の再編統合に係る計画について》

委員長 説明を求める。

教育戦略課長 内容等を説明する。

〈質 疑〉

委員長：この件は、地域住民の関心も高いものであるが、これまでの議論を踏まえて、交通の利便性を考慮したスクールバスの運行など修正も行った上で、新しい方向性を見いだした形での提案になっている。

教育長：これまでの進化形として、地域の方にも利用していただくという方向性の中で、新しい学校づくりを目指していきたい。

委員長：徳島大学でも 6 次産業化を含めた学部再編の中で、高校生の推薦枠を設けるようだが、そういった面での高大連携や、さらに新しい展開も見えてくるのではないか。

教育戦略課長：大学入試センター試験を課さない推薦試験で8名、うち4名に徳島県内の地域枠が設けられている。

田村委員：開校準備委員会が設置されているようだが、準備の進捗状況はどのように広報しているのか。

教育戦略課長：地元の中学生、あるいは県内に対して広報することは大切なので、今進めている三好地域でも、関係高校による中学校での進路説明やオープンスクールなどを通じて、直接声が届くよう広報に努めている。

委員長：特に中学生に対して、その高校へ行けばどんな教育が受けられるのか、また、どのような教育成果があるのかを示すことが重要であり、そういったことが地元の支持に繋がる。

坂口委員：新野キャンパスの施設・設備の整備を図るとして、体育館の耐震補強・リニューアルをするようだが、宝田キャンパスにも体育館があるが、どういう棲み分けを考えているのか。

教育戦略課長：体育の授業については宝田キャンパスの体育館をメインとして使う。ただ、新野高校も地域の1次避難所・2次避難所に指定されており、防災上の観点があることと、屋内施設で大きな建物は体育館しかないので、実習に伴う教育活動の一環として使用することを想定している。

三牧委員：これから具体化していくに当たり、現場の意見をどんどん取り入れ、学びの場として相応しい、きめ細かな取組が行えるようにしてほしい。

委員長：地域における学校の役割が、教育だけでなく、防災も含めた地域の拠点となり得るということも考えて整備を行ってほしい。

委員長 議案第47号を原案どおり決定してよいかを諮る。

各委員 異議なし。

委員長 議案第47号を原案どおり決定する旨を告げる。

《議案第48号 平成29年度徳島県公立学校教員採用候補者選考審査の
変更点について》

委員長 説明を求める。

教職員課長 内容等を説明する。

〈質 疑〉

坂口委員：資格による加点を行うとあるが、既に教員になっている者にも資格取得を

促していくのか。

教職員課長：昨年度、文部科学省の調査があった。調査が継続するようなら、教育委員会として生徒の英語力向上と合わせて、資格取得を促すことになると思う。ただ、資格取得の必須化については検討が必要と考えている。

坂口委員：これからの教育を担っていく教員が子供の方に目を向けず、資格取得の方に向けてしまう気がして危機感を感じる。今後議論する機会もあると思うので、慎重にしていきたい。

教育長：そもそも準一級ぐらいの資格は持っていないと、高校の英語の教員はできない。今後どう進めるかは、この場で議論していきたい。生きた英語を身につけて、例えば、我が国の歴史や制度が英語で説明できるような、生きた英語が使える教員にしていかなければと思う。

西委員：あれもできる、これもできるというよりも、個別化・独自性が大切なのではないか。この資格を取得しなさいということになると、画一化してしまう。資格取得にばかり時間がかかることにならないか。

教育長：複数免許の加点についてであるが、小規模校でクラス数が少ないと、教員の持ち時間で授業ができなくなる。そんな中で、地歴と公民の免許を取得していると両方教えられる。学校が小さくなる中で工夫も必要だと考えての方策である。また、調理師については、免許を持っていないと食物科の授業ができない。最初に取得していると、教員になってから取得してもらう必要がなくなる。ただ、資格をとることだけが目的にならないようにしていきたい。

委員長：資格についても、現在の教育の中でどんどん変わってきている。アクティブ・ラーニング等に関しては教員がコミュニケーション能力を持っていないと生徒もできない。そういうことが、これまで採用の際に審査されていない。また、新聞報道にもあったが、各県とも倍率が下がっている状況である。我々としても、戦略的・総合的に、それに適した方策を考えないと実質的には増えないのではないか。

三牧委員：徳島県の教育が目指している方向をしっかりと示さないといけない。広報を並行して行うことが必要で、31歳～39歳の教員が「徳島に行ってみよう」、「徳島の教育に携わりたい」と思うように、徳島の教育についてしっかりと発信していくことが大事だと思う。

田村委員：本当に県外の方が徳島で教育をしてみようと思うには、居住場所も大切な要素であるので、それについても情報提供することが必要でないだろうか。住みやすいとか、子供を育てやすいとかの付加価値を付けて広報すれば、来てくれると思う。

教職員課長：今でも県外からの受審者はいるが、1次と2次の面接で2回来る必要が

あるが、夏休みに家庭訪問や学校行事と重なって辞退する人もいるので、そういったことへの配慮も必要だと思う。さらに、広報もしっかりとして引きつけていきたい。

西委員：年齢構成の是正はそんなに必要なのか。県外に出ている人を戻す戦略なら、45歳ぐらいまで幅を広げてもよいのではないか。

教職員課長：採用を絞っていた時期があるので、その年代が少なくなっている。今の制度の中でも、地元以外で勤務している方が受審しているので、その方を呼び戻すということである。

教育長：今も数十名単位で受審して、県外の人が帰ってきているので、この方策によりさらに増えると考えている。

委員長 議案第48号を原案どおり決定してよいかを諮る。

各委員 異議なし。

委員長 議案第48号を原案どおり決定する旨を告げる。

《議案第50号 「元気なあわっ子憲章」の制定について》

委員長 説明を求める。

体育学校安全課長 内容等を説明する。

〈質 疑〉

特になし。

委員長 議案第50号を原案どおり決定してよいかを諮る。

各委員 異議なし。

委員長 議案第50号を原案どおり決定する旨を告げる。

《報告事項2 平成27年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査の結果について》

委員長 報告を求める。

体育学校安全課長 内容等を報告する。

〈質 疑〉

委員長：小学生は全国平均を上回るなど頑張っている。中学生はまだだが、5年前に比べると、いろいろな取組によって上がってきている。中学生は今後もっと伸びると期待できるのか。

体育学校安全課長：今後、中学生も成果が出ると確信している。

委員長：昨日、高校の都道府県駅伝があったが、成績はあまり振るわなかった。体力向上と直結するわけではないかも知れないが、結果に反映できるような仕組みづくりを考えてほしい。

《報告事項1 徳島県奨学金の返還に係る「民間事業者を活用した取組」について》

委員長 報告を求める。

学校政策課長 内容等を報告する。

〈質 疑〉

特になし。

[非公開]

《議案第49号 平成28年度使用高等学校用教科用図書採択について（追加）》

《議案第46号 徳島県教育委員会委員長の選出について》

[閉 会]

委員長 本日の議事が全て終了したので閉会する旨を告げる。

閉 会 午後3時40分